



## 自分の「道しるべ」を信じて

教頭 清水達史

校庭や公園の片隅で、一心不乱に列になって進むアリの行列を見かけることがあります。理科の教員である私は、その小さな背中が描く列を見るたびに、彼らが持つ驚異的な「繋がる力」に思わず見入ってしまいます。

一見、皆が同じように動いているように見えるアリの集団ですが、実はそこには非常に高度で緻密な役割分担が存在します。外へ出て食べ物を見つけるのが得意な者、重い荷物を力強く運ぶ者、そして巣の中を常に清潔に保つ者。さらには「ハキリアリ」という種類のように、人間が農業を始めるはるか昔から、切り出した葉を肥料にしてキノコを栽培するという、特殊な技能を持った「農業の先輩」のようなアリまで存在します。彼らは一匹では非力な存在かもしれませんが、それぞれが「自分にできること」を精一杯果たすことで、一つの大きな集団の命を守り、明日へと繋いでいるのです。

この姿は、これから社会という大きな世界へ踏み出そうとしているお子様たちの姿に、そのまま重なるのではないのでしょうか。「働く」ということは、決して何でも一人で完璧にこなすことではありません。自分の得意なことや、今の自分にできる精一杯のことで誰かの役に立ち、あたかもパズルのピースがぴたりとはまるように社会の一部となること。それこそが、働くということの本質であり、尊さであると私は考えています。

アリたちは、餌を見つけたときに「フェロモン」という物質を地面に残します。それが後から来る仲間たちの確かな「道しるべ」となり、迷いのない行列を作ります。学校生活における日々の学習活動や就業体験、行事での役割などは、いわば自分だけの「道しるべ」を見つけるための大切な時間です。自分の得意不得意を知ること、そして頑張ったことで周囲から「すごいね」と認められたり、「ありがとう」という感謝の言葉を受け取ったりすること。その一つ一つの経験こそが、お子様の心に刻まれる確かな道しるべとなり、将来の目標へと繋がっていくはずですよ。

保護者の皆様におかれましては、お子様の進路という大きな節目を前に、時には悩み、立ち止まられることもあるかと存じます。しかし、自然界の生き物と同じく、成長のスピードや輝く場所は一人ひとり異なります。大切なのは、決して周囲と比べることではなく、その子が刻んでいる自分らしい「道しるべ」を信じ、温かく見守ることではないでしょうか。

お子様が社会という大きな繋がりの中で、自分だけの輝ける場所を見つけていけるよう、私たち教職員一同、ご家族と共にその確かな歩みを支えてまいります。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 令和7年度 高等部卒業生の進路先

### 令和7年度 高等部卒業生の進路先

#### 卒業生20名

- ・就職 4名
- ・障害福祉サービス利用 15名
- ・その他 1名

- ・サクラパックス株式会社
- ・株式会社小松製作所氷見工場
- ・株式会社HARITA
- ・特別養護老人ホーム つまま園



- ・いみず苑なごみ
- ・こもれびの里
- ・Beeこぼん
- ・新生苑
- ・ひらすまあらいべ
- ・つくしの家高岡、といで

その他1名

就職 4名

生活介護 5名

就労継続支援B型 8名  
(内 生活介護との併用 1名)

就労継続支援A型 2名

- ・あかり
- ・アフレックス

- ・ワークスタかおか、てんもく、たから
- ・B-step
- ・ジョブステーションさくら 北部事業所
- ・ゆめボール工房ひみ
- ・る・ふっくらん
- ・アルテ・マーン



生徒たちは、進路決定に向けて具体的な目標を設定し、学校生活の中で日々努力してきました。その成果があり、どの生徒も「以前より成長が見られますよ」との評価をもらい進路決定に結び付けることができました。

4月からは社会人としてのスタートを切ります。進む道は異なりますが、それぞれの場所で力を発揮してくれることを期待しています。



チラシを使った箱作り



中学部2年生の生活単元学習「いろいろな仕事」では、「仕事について知る」「仕事を体験する」の二つを柱として学習に取り組みました。

前半の「仕事について知る」では、8月に行われた職場体験を振り返ったり、仕事の種類を調べてワークシートに記入したりしました。

後半の「仕事を体験する」では、「チラシを使った箱作り」「ネジの袋詰め」の仕事に分かれて、それぞれの仕事を体験しました。「チラシを使った箱作り」では作業を分担して行い、「①丁寧に②手順どおりに③素早く」の3つの約束を守って、友達と協力してきれいなチラシ箱を作ることができました。「ネジの袋詰め」では、ネジを正しく5本数えて密閉袋に入れ、チャックを隙間なく閉じることができました。仕事の体験では、その日の仕事量に応じてチケットがもらえ、最終日には、学年集会でそのチケットを使って、ゲーム大会を楽しみました。

生徒たちからは、「仕事はとても大変だったが、目標数以上の仕事できてよかった」「仕事をしたらチケットがもらえ、好きなことができて嬉しかった」などの声が聞かれました。

この単元を通じて、それぞれが達成感を得たり、働く喜びを感じたりするよい体験となりました。



ネジの袋詰め



キャリア教育推進委員会 1月29日(木)

キャリア教育推進委員会では、今年度の進路指導の取組を紹介しました。外部委員の方からは、本校の進路指導について貴重な助言をいただきました。また、最新の情報も教えていただきました。

<外部委員> 	・高岡市福祉保健部 社会福祉課 障害福祉係	係長	要藤 博文 氏
	・高岡公共職業安定所	統括職業指導官	木下 浩利 氏
	・高岡障害者就業・生活支援センター	主任就業支援ワーカー	牧野 優子 氏
	・ウエルシアオアシス株式会社 北陸営業所	所長	細野 史典 氏
	・社会福祉法人射水福祉会 あいネットいみず相談支援部	部長	寺岡 栄一 氏
・富山県特別支援学校地域就労支援アドバイザー		山田 美智代 氏	

①進路選択について

・ダイレクトでB型を利用する方が多いが、高校生が専門学校等を経て社会に出るように、就労移行支援を利用してからでもよい。A型、B型、生活介護には、それぞれの役割があり、事業所により特色があるため、情報をしっかり得てから選んでほしい。

・「どこで働くか」に加え、「誰と働くか」も大切である。フォローしてもらえるキーパーソンを見つけるとよい。

・自分で進路選択をしてほしい。短期で離職する人の多くは、保護者に勧められたという理由で進路を決めている。「ここで働きたい」という気持ちが大切である。

②「働く」につながる大切なこと

・小さいときから、働く気持ちを育てていくことが大切である。お手伝いをして「ありがとう」と言われたり、小遣いをもらったりすることが働くことのベースになる。「どうして働くのか」の本質を理解していないと働き続けることは難しい。

・「なぜ働くのか」のモチベーションを在学中に身に付けておくとよい。給料でどんな楽しいことをするか、考えておくことが大切である。

・交通機関の情報も必要がある。射水市では、事業所を利用するために交通機関「のるーと」の利用が必要であるが、スマホがないと「のるーと」が使えない。スマホの使い方も学習しておく必要がある。



③企業就労について

・企業で就業体験する場合は、気温が高い夏、通勤が難しくなる冬など、いろいろな季節に複数回、就業体験しておくといよい。

・生活面での支援が必要な場合は、委託の相談支援事業所や基幹相談支援センターにつながっておくとよい。

・令和8年7月に障害者雇用率が2.7%に引き上げられる。それに伴い、障害者専用求人も増えると思われる。